

# 3 校内研修に取り入れてみよう

参加型の校内研修は、個々の意見を取り上げていくことが容易で、教職員の研修意欲を高める方法の一つです。時期や目的に応じて選択し、組み合わせながら実施しましょう。

## 雰囲気づくりをする

## アイスブレイキング

**アイスブレイキング**とは、参加者の緊張を解き、相互理解を促すことで、研修への積極的な参加に向けた準備をするための手法です。簡単にできて楽しめる協同作業をやってみましょう。

他にも、相手をほめたり体を動かしたりなど、いろいろ考えられます。目的や場面に応じたものを臨機応変に取り入れてみましょう。

話しやすい雰囲気をつくる例 『1分間伝言ゲーム』

### おすすめ方

- 二人組になり、話し手・聞き手を決める。
- 話し手は、好きな物・事（食べ物、旅先、本、音楽等）について1分間で紹介する。聞き手は声を出さずに共感的に聞く。
- 1分間たったら聞き手が内容を要約して話し手にフィードバックする。
- 聞き手と話し手が入れ替わって同じことを行う。



### ポイント

- ・聞き手 相づちを打ちながら聞く。話を遮らない。話しやすい雰囲気をつくる。
- ・話し手 時間に合わせて分かりやすく伝える。相手が聞きたくなる話を考える。
- ・双方 伝え合うための二人の協同作業を行う。感想を相手に伝える。

## 考えを引き出し整理する

## ウェビング

**ウェビング**とは、キーワードを1つ設定し、思いつく言葉を書き出しながら次々とつないでいく手法です。「連想ゲーム」のように、参加者同士がアイデアを広げていくのに有効です。

### おすすめ方

- 研修の「キーワード」を決める。
- グループに分かれ、のキーワードを中心に思いつく言葉をつないでどんどん書き出す。
- 出された考えを色分けしたり、枠で囲ったりする。
- アイデアを整理し、具体的な取組方法を考えていく。

多くの考えを引き出すために



考えをまとめるために



右上の写真は、1年間の研究を振り返る研修で、研究テーマを見直している様子です。「いのち」をキーワードに次年度の道徳教育の視点を出し合っています。

## 考えを引き出し整理する

## ブレインライティング

ブレインライティングとは、アイデアをシートに書き込みながら、順次まわしていく手法です。グループの他のメンバーの発想をヒントにするので、より考えが広がったり深まったりするよさがあり、発言が得意ではない場合に有効です。

### すすめ方

#### 発散思考

テーマを設定し、6人グループになる。  
テーマにしたがって、アイデアを3つ考え、シートに記入する。  
5分たったら、自分の左の参加者にシートを渡す。  
回ってきたシートの2番目の欄に、前の人の記入した内容を読んで連想したアイデアを、5分間で3つ書く。  
シートが埋まるまで繰り返す。

**(3つのアイデア×6回)×6人=108のアイデア**

#### 収束思考

出てきたアイデアを、協議しながら整理したり優先順位をつけたりする。

平成22年2月1日実施の東部教育局ワークショップで、国の中央研修参加者から紹介された手法です。

テーマ			
	A案	B案	C案
1			
2	付箋紙に書いて貼ると、次のステップで整理するときに活用しやすくなります。		
3			
4	人の考えを批判しない 予算等気にせず自由に考える 前の人 <u>の</u> 考えをふまえて考えてもよい 質より量が大切		
5			
6			

## 考えを引き出し整理する

## KJ法

KJ法とは、共通の課題・テーマに向けてさまざまな情報を整理し、相互に関連付けながら、新たな発見を生み出す時に有効です。協同作業をすることで仲間づくりの効果も期待できます。

### すすめ方

共通の課題・テーマに対して、個人の考えをカード（付箋紙）に書く。

#### カードに書くときに

文字は大きく  
短文で

1枚のカードに  
内容は1つ

「こんなこと書いていいのかな？」と思わないで、自分の意見をどんどん書いていきましょう。

- ・色やカードに書く方向を事前に決めておく。
  - ・1枚のカードに一つの事柄（短文）を書く。  
書いた事柄を模造紙等に貼る。
  - ・1人がカードを模造紙上に貼り、その事柄についてコメントをする。
  - ・同じ意見は近い場所に貼っていく。
- 全員貼り終わったら、グループ分けする。  
事柄ごとに線で囲み、見出しをつける。
- ・線や見出しの色を工夫する。
- 関連する内容を矢印で示したり、類似の見出しをまとめて囲んだりして、大きな見出しをつける。  
構造化された課題を踏まえ、解決策を考える。





考えを引き出し整理する

マトリクス法

マトリクス法は、ある程度の意見やアイデアが出された後、条件を2つの視点から段階的に組み合わせて考えることで、さらに具体的な意見を出し合ったり、話し合いを深めたりする時に有効です。

すすめ方

現状分析にも課題解決にも使えます！

テーマを決定する。

例：学習規律を定着させるための現状分析

2つの視点を決定する。

例：規律...授業中のいろいろな規律

例：教科...教科等をリストアップ

マトリクス図を作成する。

マス目ごとに現状分析をする。

例：授業中に学習規律が乱れている点について列挙する。

教科 \ 規律	挨拶	発表	聞く姿勢
国語			
算数			
体育			
音楽			

分析の難しいマス目が出てくるとも考えられるが、視点を決めて、より細かい現状分析を行うことで、課題が明確になり、具体的な課題解決のためのアイデアを協議する研修へ

考えを引き出し整理する

SWOT分析

SWOT分析は、学校組織マネジメント研修でよく取り上げられる研修方法です。学校の内部環境と外部環境の2つの軸で、プラス面とマイナス面のマトリクスを作り、自校のめざすべき姿と重ね合わせることで、多様な観点から特色ある学校づくりを生み出すことをねらいとしています。

(例)

学校経営においては、内部環境（学校規模、生徒の実態、教職員の特性等）と、外部環境（地域の環境、教育行政、関係機関等）において、強み、弱み、機会、脅威の4つのマトリクスを作って現状分析を行い、今後の方策を考察する方法です。

マイナス面に目がいきがちですが、プラス面を生かす発想が大切です。

	内部環境要因	外部環境要因
プラス面	<b>強み</b> ・大規模な生徒数 ・個性ある教職員 ・広い多目的ホール ・図書室の充実	<b>機会</b> ・多くの社会的施設 ・交通の至便 ・学校支援ネットワークの充実 ・大きな自然公園
マイナス面	<b>弱み</b> ・複雑な家庭環境 ・不登校生徒の増加 ・教職員の人間関係の希薄化	<b>脅威</b> ・核家族が多い ・地域の連帯感が希薄 ・人口の流出入が激しい ・娯楽施設が多い



## 体験する

## 模擬授業

**模擬授業**とは、教員を児童生徒に見立て、検討した指導案に沿って実際に授業を行い、改善を図る研修方法です。指導案上で考えていた内容をそれぞれの役割で体験することで、「答えにくい」「分かりにくい」など、改善のポイントを体感していくことができます。

### すすめ方

当日の研究授業者が、作成した指導案に沿って授業を行う。

他の参観者は児童生徒役になって、指導者の発問に対し、児童生徒の予想される反応を考えながら発言する。

模擬授業後（または模擬授業中）、参加者は、分かりにくかった発問や気が付いたこと等を発表する。

授業者は、実際に発問してみてもやりにくかったこと等について発表する。

**指導者の発問や動きなど**

協議を通してよりよい発問を考える。

**改善指導等について、再度模擬授業を行う**

全体を通して模擬授業を行う時間がない場合は、中心となる発問の部分のみ行うと、協議を焦点化することができます。  
複数回模擬授業を行うと、議論が深まります。



## 具体的な対応策を考える

## 実践化シート

**実践化シート**は、他の演習や活動で出された意見やアイデアを整理し、その内容と効果の大小等で視点を明確にし、さまざまな改善策に順位をつけることにより、実現の可能性を構造化していくシートです。

### すすめ方

グループ演習等で課題を明らかにする。

課題に対する解決策や改善策をグループごとに2～3つ発表する。

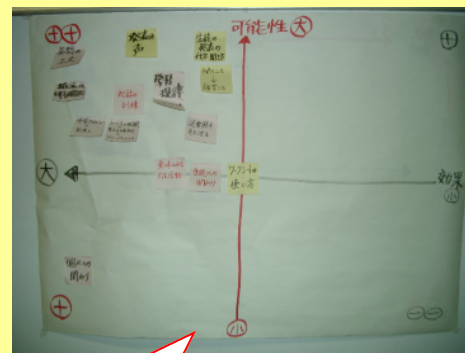
2つの視点でスケールをつけたシートを作る。

例：効果が大きい      効果が小さい

：取組が容易      取組が困難

：即効性      遅効性

具体的に実践できる取組に順位をつける。



意見やアイデアをしぼったあとは、いつまでにだれがどのように実行していくか、進捗状況はどうチェックするか、具体的にスケジュールを立てておきましょう。

グループ研修で出された意見をそのままにしておくのではなく、実践可能な順位を付けてみることで、翌日からの取組が具体的に見えてきます。

## 参考事例 ～ 東部通信より～

### 心をつなぐ『学校びらき』

桜ヶ丘中学校では、平成14年度より、学年始休業中に校内研究の一環として「学校びらき」を行っています。本年度も、心と心のつながりを大切にした研修を全職員で行いました。

折り紙名札作り(転入職員と2人組になり折り方を説明する) **アイスブレイキング**  
**GWT(グループワークトレーニング)**  
 ・6人組で自己紹介(協働作業をしながら) ・2人組でアサーションのロールプレイ  
 ・全職員でつくる『名前の樹』(他の職員の名前に自分の名前をつないで『樹』をつくる)  
 職員2人ペアでの校舎めぐり(転入職員と2人組になり案内する)  
 活動全体についての全職員での振り返り(感想をもとに語り合う)



校内研究部が中心となって実施している「学校びらき」のねらいは二つです。

**最初の出会いを大切に、職員同士の人間関係づくり  
 学級びらきにすぐに生かせる実践的な職員研修の実施**

研修を通して13名の転入職員の表情は和らぎ、他の職員も頼られる喜びや相手を思いやる気持ちを再確認しました。リーダー役の先生の“桜ヶ丘中学校をよりよい学校にしたい”という思いのあふれる姿に、職員一同引き込まれていきました。新たな気持ちで登校してくる生徒たちの姿を思い描きながら、桜ヶ丘中学校職員としての意識を高め、職員の団結力も強める取組になりました。



職員の振り返りより

この学校に来て、お互いのコミュニケーションの大切さを感じる研修でした。生徒はもちろん我々教師もつながり(同僚性)を日々感じていける場でありたいと思いました。

1年目を思い出しました。転入された方の気持ちが少しでもほぐれたらいいなあと思いました。生徒に望むことが自分たちでもできる(しようとする)職員集団でありたいです。

### 「教科の壁」を越える！～協働体制の確立で授業力の向上～

中学校は教科担任制で、なかなか他教科の授業について意見が言いにくいなどの「教科の壁」があるようですが、各中学校ではどのように工夫されているのでしょうか。

生徒数70名の小規模校である佐治中学校では、担当教科を1人で全学年を教えています。昨年度より文科省の「学力向上拠点形成事業」を受け、確かな学力をつけるため、自校の実態を踏まえてさまざまな工夫を行っています。



#### (1) 研究授業の工夫

学習指導案の**学習内容、基礎・基本、評価の観点**を一覧にして示し、学校としての形式をもつ。

指導計画と評価の観点 「いろいろな気体」			
	学習内容	基礎・基本	評価の観点
第6時 (本時)	未知の気体を探ろう	<ul style="list-style-type: none"> <li>未知の気体に興味を持ち、その気体の種類を意欲的に調べようとする。</li> <li>他班の実験結果にも興味を持って耳を傾けることができる。</li> <li>実験結果からその気体が何であるかを推定することができる。</li> <li>未知の気体についてそれを集め、何であるかを調べることができる。</li> </ul>	自然現象への 関心・意欲・態度 科学的な思考 観察・実験の技能・表現

生徒同士がかかわりあいながら、問題を解決する学習を取り入れる。

(かかわりあうことで、思考力・表現力が伸びる。)

**提案：教師の感じている授業(実験)の内容のおもしろさを、最大限に引き出す授業展開を工夫する(個々の思考や発想を大切に、自らが主体的に動きながら課題を解決する)ことで、授業の内容そのものが興味・関心に直結し、授業を受けること自体が動機付け・意欲付けとなる授業。**

生徒の実態を的確に把握し、視点を明記した提案性のある授業とする。

(この生徒たちにこの授業でこの力をつける。こう変容させたい。)

他教科担当者を加えて、チームで指導案を検討する。

(他教科の教師から質問が出るところが、生徒に伝わりにくいところ)

(2) **研究協議の工夫**・・・上の提案を視点として生徒の様子を見取り、気づいたことを付箋に書いておき、それを内容によってカテゴリー分けしながら協議(KJ法を活用)をする。

(3) **指導助言者のかかわり**・・・研究会当日だけでなく、事前・事後もかかわってもらえる指導助言者(教科専門)を依頼する。

このように“教科の壁”を越えた校内体制での授業研究会を行うことを通して、教職員の日々の「授業」に対する認識が変わりつつあります。